

「育てたい児童・生徒像」に向け、学校と地域で「一緒にやろう！」

# あなたの学校・地域の きのくにコミュニティスクール

「OK!」から  
「Let's!」へ



「コミュニティ・スクール」とは、「学校運営協議会制度」を導入した学校を指します。和歌山県では、全校種を合わせた導入率は、96.8%（R4文部科学省調査）と、全国1位となっています。成果の出ている学校も多いですが、今後、さらに各学校や地域において展開される活動に注目が集まっています。



## 教員が及ばないところに関わってもらえる!



あなたの学校の、コミスクはどう?

校長先生や教頭先生が地域の方と会議をしてるなあって感じですが…



若手教員

### 市立A小学校の例

学校運営協議会の委員にコーディネーターが含まれていて、学校や先生が「やりたいけどどうしたらいいか」困っている取組に対して、地域住民へ呼びかけ、人と人をつなぐ役割をしている。年間のべ500人程度のボランティアが、学習支援（読み聞かせ、まち探検、書道、裁縫、栽培、米作り等）や、防災教育等に関わっている。



中堅教員

うまく活用すれば、子供たちの社会性を育んだり、自己肯定感を高めたりするいい機会になるよ。

教員だけで準備するのは大変だけど、地域の人と協働することで、学習が広がり、授業の質も高まりそう。たくさんの人に関わってもらえれば、子供たちもうれしい。



若手教員



## 学校が抱えている課題に対して、一緒に考え、行動できる!



中堅教員

地域と連携・協働すれば地域が味方になってくれるよね。子供の登下校のマナーについて苦情の電話が毎日のようにかかって困ってたけど、学校運営協議会で相談し、地域の方に関わってもらうことで、苦情の電話が減ったこともあるよ。

### 市立B中学校の例

不登校、別室登校生徒への支援について、教員や不登校支援員だけでは困難な状況があることを、まず、学校運営協議会の委員の皆さんに伝えた。このことについて、熟議を重ね、当該生徒たちには、校内における居場所づくりが最優先と考え、人材バンクを活用し、絵本の読み聞かせを実施した。

継続して熟議を重ねながら、コミュニティ・スクールを活用した不登校、別室登校生徒の居場所づくりに取り組んでいる。

生徒の困りごとや、私たちの困りごとを、委員の皆さんと一緒に考えてできることからはじめていく。それが地域とともに解決策をさぐることになる。



若手教員



## 校長や教員がかわっても地域が学校を支える仕組みづくりができる!



地域の方

前の校長先生とはよく話しているわかってくれていたけど、今度の校長先生はどうなんだろう?

いい取組をしている学校は、地域とのつながりの強い先生がいてこそなのかなあ。そういう先生がかわってしまうと、また地域とのつながりが弱くなるなあ。



校長先生

### 市立C小学校の例

全校児童数約20人の小学校で、「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう、全教職員が参加する各専門部会を核に実践的な取組や活動を進めている。また、地域の青年団、老人会、女性会等とも連携している。



地域の方

学校運営協議会があれば、いつも学校とつながってられるわ。

これまでも地域とのつながりは重視してきたよ。その中で、学校運営協議会が県内のどの学校でも立ち上がっていることに意味があるよね。



校長先生



たてまえに終始してはダメだよ。もっと深く議論し、理解することが大切なんだ。課題解決に向けて、一緒に行動してくれる人、何よりも当事者意識をもって関わってくれる人に、学校運営協議会の委員になってもらおう。

こうして考えると、コミュニティ・スクールって私たちのことなんですね。もっともっとコミスクや学校運営協議会をよく知って、みんなの笑顔につなげていきたいな。



若手教員



コミスクとは…  
先生の意見がかたちになるしくみ!  
地域との良いつながりが持続できるしくみ!